

コード No. 10241

**Anti-Human
Parkin (1A1) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : Parkinをコードする遺伝子は常染色体劣性若年性パーキンソン症候群(AR-JP)の原因遺伝子として発見されました。遺伝性パーキンソン病はこれまでに10個の原因遺伝子(α-synuclein 遺伝子、UCH-L1 遺伝子、parkin 遺伝子など)が同定されていますが、パーキンソン病遺伝子の変異によるものが一番多いと報告されています。Parkin は約 52kDa のタンパク質で N 末端にユビキチン様ドメイン、C 末端側に RING フィンガーモチーフを持つユビキチンリガーゼです。Parkin の基質として CDCrel-1, Pael receptor, o-glycosylated-α-synuclein, Synphilin-1 等が報告されています。パーキンソン病遺伝子の変異はエクソン 3-5 で欠失が多く報告されています。本抗体はその変異部分とは異なるエクソン 11 の配列に反応する抗体です。そのため、正常型 変異型共に検出することが可能です。

免疫抗原 : Human Parkin の C 端部分合成ペプチド (AYRVDERRAAEQARWEAA)

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(X63 - Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : 1A1 サブクラス : IgG₁

精製方法 : 抗原特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫細胞染色 5 µg/mL にて使用可能
(Parkin 遺伝子を導入した COS 細胞で確認しています)
ホルマリン固定 パラフィン包埋切片での免疫組織染色には不適
: ウェスタン・ブロッティング 約 1 µg/mL にて使用可能
: 免疫沈降反応 約 3 µg/mL にて使用可能

特異性 : Mouse, Rat に交差